



▲ 葛尾村に設置された太陽光パネル。左は葛尾創生電力の植村廣さん



葛尾村に設置された大型の蓄電池

▲1月3日 福島民友新聞掲載



葛尾創生電力
社長の松本弘
副村長

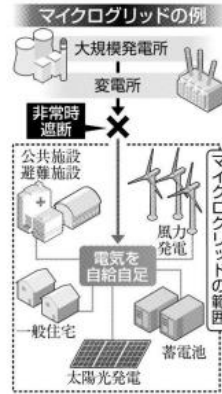
葛尾村「自前の電線」災害備え

2011年3月の東日本大震災で約5年間の全村避難を強いられた葛尾村。面積の8割を森林が占める阿武隈高原の小さな村で太陽光発電や蓄電池、自前の電線を活用したマイクログリッドが構築されている。

手がけるのは村が出資する地域電力「葛尾創生電力」だ。村の中心部に送電線約5基と電柱約140本を配置し、東北電力の電力網と併存している。「これが葛尾村、隣は東北電力の電柱です」。交差点で同社の植村廣さん(61)が説明してくれた。

設立は18年10月。遊休農地に出力1200キロワットの太陽光発電所や容量3千キロワットの蓄電池を設置した。事業費約7億8千万円のうち3分の2は国の補助金だ。普段は東北電力の送電線につながり電気をやりとりするが「災害など非常時は切り離し、独自に電気をやりくりできる」と植村さん。22年に村外の送電線トラブルで停電した際は、村全域の復旧は約2時間半後だったが、自前の電気が使える中、心部は約50分で復旧した。契約数は一般住宅や役場、地元企業など約140

件と着実に伸びている。一部に帰還困難区域が残るが、宿泊施設や商店などが徐々に戻ってきた。社長で葛尾村副村長の松本弘さん(65)は「自然エネルギーの活用と災害時の電力自立を進め、地域に雇用も生み出したい」と意気込む。



葛尾村に並ぶ葛尾創生電力の電柱(手前)と東北電力の電柱

5W1Hを読み解こう

記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。(330字程度)

いつ(When)
いつ設立?

どこで
(Where)

だれが(Who)
何という会社?

なにを
(What)

どのように
どうやって
(How)

どのような設備?

なぜ
どうして
(Why)

目的は?

エネルギーの地産地消が今後進んでいくためには、どのようなことが必要でしょうか?



「ジュニア窓」にようこそ

福島民友投稿のページ「窓」に送る